

- 電力使用量を抑制するため、役員会レベルで強力な学内キャンペーン活動を展開
- 夏場のピーク時には翌週の天候や気温予報を基に「週間電気予報」を出し、契約電力を超えそうな時には警報を発令
- これらの取り組みにより、平成16年度夏季3ヶ月間で約280万kWhの節電を達成

東京大学の電気使用量は
一般家庭の7万5千世帯分

節電に協力下さい

東京大学週間電気予報 (8月) 2004.08.02

日付	26月	27火	28水	29木	30金	31土	1日
最大電力(本報)	36,600KW	36,800KW	36,800KW	35,600KW	35,800KW	26,200KW	23,000KW
天気	曇一時雨	晴時々曇	晴	曇時々雨	曇一時雨	曇	晴時々曇
最高気温	32.6	34.8	33.5	30.8	32.2	31.5	-

日付	2月	3火	4水	5木	6金	7土	8日
電気予報							
天気予報	晴れ	曇り時々晴れ	晴れ時々曇り	晴れ時々曇り	晴れ時々曇り	晴れ時々曇り	晴れ時々曇り
最高気温	33(±2)	33(±2)	33(±3)	33(±3)	34(±3)	34(±2)	35(±4)

説明
 1. 気象庁のデータ、過去の電力データを元に予測しています。
 2. 省エネへのご理解と、皆様が率先して省エネに動かれませう。環境課のマスコットである「デマンドくん」を用い「電気予報」としてお伝えします。
 3. デマンドくんの解説(最大電力オーバーについて) 注意 厳重警戒

4. 問い合わせ先: 環境課環境保全係内線 2 2 2 5 8

- 青葉山団地の電力需要抑制のため、空調機動力源のガス化を決定(GHPへの切替)
- 平成14年度より漸次切替に着手し、平成16年度までに11棟、約58,400㎡を実施
- 平成16年度には、ガス事業者と折衝のうえ安価な単価に契約を改定。(約14,400千円縮減)

● 青葉山団地(建物保有面積29.5万㎡)では年々電力需要が増加し、最大電力を抑制するため一部機器の運転停止が常態化するとともに、数年ごとに契約電力の見直しを迫られていた。この対策の一つとして、平成14年度から空調設備にGHP(ガスヒートポンプ)を導入することとし、これまで11棟約58,400㎡(延床面積)で実施。

- 施設部では、ガス需要が大口径契約対象の使用量となったことから、割安な単価の適用について仙台市ガス局と折衝を重ね、平成16年6月に契約を改定。
- 契約改定により平成16年6月から平成17年3月までの10ヶ月で、ガス料金を約14,400千円縮減。平成17年度は新たに総合研究棟が加わるため、年間約26,400千円の縮減効果を想定。

青葉山団地GHP導入実績

番号	建物名称	延床面積	実施年	改修/新営
1	研究実験棟	9,200 ㎡	H14	改修
2	南実験棟1	1,000 ㎡	H14	改修
3	南実験棟2	1,000 ㎡	H14	改修
4	建設系実験研究棟	7,200 ㎡	H14	改修
5	インキュベーション施設	1,000 ㎡	H14	新営
6	生物学棟	3,500 ㎡	H14	改修
7	学際科学国際高等研究センターB	3,200 ㎡	H15	新営
8	地学棟	5,700 ㎡	H15	改修
9	応用薬学総合研究棟	4,200 ㎡	H15	新営
10	化学系講義棟	400 ㎡	H15	新営
11	工学系総合研究棟	22,000 ㎡	H16	新営
	計	58,400 ㎡		